

平成22年度 校内評価委員 及び 学校評議員のまとめ

香川県立三豊工業高等学校

1 平成22年度学校評価の重点目標

分野	重点目標
1 教育活動	① 基礎的・基本的な知識や技術を確実に身につけさせる。
	② 高度熟練技能者の育成を進めるとともに、各種資格・検定に積極的に挑戦させる。
	③ ものづくりや部活動等に積極的に取り組ませる。
2 学校運営	④ 校務の効率化を図り、生徒と向き合うことができる時間を確保する。
	⑤ 積極的に情報発信し、地域との連携・協力を図りながら信頼される学校を目指す。

2 評価のまとめ

※数値評価は(4:大変よくできている 3:できている 2:ややできていない 1:できていない)の平均

	項目	校内評価委員			学校評議員 評価平均
		評価平均	成果について	課題	
1	①	3.4	授業の充実とともに、個別指導や課外の成果もあり、それぞれの科において基本的な知識や技術が一定程度定着している。	学習習慣が身につけていない生徒への、さらなる指導や動機付けが必要である。	3.5
	②	3.8	全員受験の検定、希望者の資格取得とともによく指導できている。また、熟練者から学ぶ機会を取り入れた技能士試験等に挑戦する生徒も多く見られた。	・部活動と資格・検定課外の時間調整が難しい。 ・資格により、合格率にまだまだ向上の余地がある。	3.7
	③	3.6	入部率も高く、多くの生徒がそれぞれの部活動で活躍している。また、全国大会での好成績や地域でのイベント参加、課題研究の充実等、評価できる。	・全員入部が原則だが、途中退部や欠席生徒への指導の工夫が必要である。 ・課題研究で使用する設備や原材料の充実が望まれる。	3.8
2	④	3.1	他校に比べ、仕事の分担や校内サーバーを使つてのスリム化がなされており、会議も少ない。また、部活動や課外授業など、生徒と接している時間は多いと感じる。	・あまり効率化に関する議論がされておらず、ほとんど改善されていない。 ・学校行事の精選が必要 ・分掌の適正な分散	3.3
	⑤	3.9	持久歩や三豊工祭などの公開行事、部活動の地域イベント参加などが積極的に行われている。また、三豊工だよりやホームページ等を通して、十分に発信している。	・発信文書が一部の保護者に届いていない。 ・現在の連携成果が、入学志願者増につながってほしい。	3.7

3 次年度(平成23年度)の重点項目について(見直しや改変についての意見)

- ・校内評価委員(16名)の9割が、今年度と同じでよいとの意見
- ・学校評議員(5名)の全員が、今年度と同じでよいとの意見

<理由>

- ・変えない方が、昨年度との比較がしやすい。(経年比較に意味がある)
- ・昨年、協議の末に変えて、評価がしやすくなった。(項目で迷いにくくなった)
- ・重点目標に対して、先生方がよく努力している。